

大豆作り・みそ作り講座始まる



ようやく芽が...

種まき機「ごんべえ」



第713号
 発行人 ● 豊丘村公民館
 館長 原 国人
 編集人 ● 長野県下伊那郡
 豊丘村公民館報
 編集委員会
 0265-35-9066
 印刷所 ● 龍共印刷株式会社

私たちの村
 (7月1日現在 ※外国人を含む)
 男 3,340人
 女 3,380人
 総人口 6,720人
 世帯数 2,196戸

農業の楽しさや収穫の喜び 手作りみそを体験しよう

大豆栽培からみそ仕込みまでを経験し、自家栽培、自家消費することで農業についての関心を高めてもらう。また、受講生同士の楽しい時間や共通の体験を通じて、新しい仲間づくりのきっかけの場となつてほしい。そんな思いからこの講座を開設した。日本中で新型コロナウイルス感染者が増え続ける時期での受講生の募集だったが、十三名の申し込みをいただいた。三密は避けても、心は密接に事業を進めていきたい。

この事業は、公民館だけでなく、多くの関係者にご協力をいただいている。大豆栽培については、共催の農業委員会から始まって、営農支援センター、NPOだいち。みそ作りについては、柿外土手作りサロン運営のみなさんである。田村原の七畝の畑を借り

て、五月下旬に肥料まき、圃場作りをスタッフで実施。新型コロナウイルスの心配はあるものの事業を中止ばかりにはしては行かない。短時間の作業とし、手洗いを用意するなど対策を講じて当日を迎えた。

まず、種まきをする列を、小さめの歩幅で歩き足跡をつける。真つ直ぐ歩くのも意識し過ぎるとなかなか難しい。足跡に、受講生が、種を二粒ずつまいた。全てまき終えるには時間がかかってしまうので、畑の半分は、大豆栽培が盛んな上伊那から種まき機(通称「ごんべえ」)を借りて、あつという間に

播種作業が済んだ。発芽したのを見つけたのは播種後十一日目、それまで全く雨が降らず、荒野のような畑だった。この間、鳥害に遭わないか、いつ芽が出るのか気を揉んだ。播種後五日目からスプリンクラーで散水が始まり翌週芽が出始めた。同時に梅雨入りを迎え、恵みの雨をもたらして六月二十二日には芽が出揃い、ひと安心した。六月二十九日現在、大きさはまちまちだが、大豆は、



芽が出揃った圃場

元氣よく伸びている。今後、七月の土寄せと草取り、八月の草取りを経て、枝豆の収穫、秋のさや干し、収穫となる。みそ作りは一月下旬を予定している。仕込んで十ヶ月経つと食べ頃のみそになる。美味しいみそ汁を楽しみに夏の農作業を乗り切りたい。

作業風景、大豆畑の様子など、豊丘村のホームページに載せているのでそちらもご覧いただきたい。(公民館事務局)

小中学校給食再開 給食配膳ボランティア活躍

小学校が全面登校となるには給食再開が必須。特に、児童が配膳するのはリスクが高いので、急遽、コミュニティスクールの学校支援ボランティアとして活動している方々の協力を得て、十日間にわたり細心の注意を払いながら給食配膳の活動が行なわれた。

豊丘北小学校教頭
 山崎 恵一

「えっ、始まったばかりなのに、もう休み!」

今年度の学校生活は、四月に一週間ほど登校して過ごしただけで臨時休業に入ってしまった。そして、約二ヶ月間は通常の学校生活ができませんでした。

しかし、五月末にいいよ学校再開の判断が下り、待ち遠しかった子どもたちの元氣な声や授業、給食に期待が高まったのです。ところが、そんな学校生活を目前にして困ったことが生じていました。それは、給食の摂り方でした。おいし

くいたきたいが、三密(密閉・密接・密集)を避けなければいけない。除菌、盛り付け、配膳のときは、どうしても三密になってしまふ。かといって教職員だけで児童全員の給食を盛り付け、配膳をする余裕はない。どうしようか、本当に悩んでいました。そこに吉報が入ったのです。

「給食ボランティア、降臨!」本当に嬉しい知らせでした。学校が再開となる五月二十五日から十日間、

拡大防止の取組として、児童はできるだけ席についていることにしたので、ボランティアと教職員とで除菌、盛り付け、配膳を行いました。ボランティアの皆さんは普段から家庭で調理をされているので、除菌や盛り付けの素早さ、手際の高さを発揮してくださり、子どもたちが給食当番で行うよりも早く準備ができてしまったほどでした。「お母さんパワー、強し!」です。給食ボランティアに大変感謝です!

さて、ボランティアの皆さんが去り、現在の給食事情はといいますと、子どもたちと教職員が分担し、除菌は教職員が行い、盛り付け、配膳は子どもと共に行うところまで戻っています。この給食が途切れないように新型コロナウイルスの第二波、第三波が来ないことを祈る日々です。



さて、ボランティアの皆さんが去り、現在の給食事情はといいますと、子どもたちと教職員が分担し、除菌は教職員が行い、盛り付け、配膳は子どもと共に行うところまで戻っています。この給食が途切れないように新型コロナウイルスの第二波、第三波が来ないことを祈る日々です。

どの競技も感動ものであるが、とりわけ病氣やけがなどを乗り越えて躍動する姿や栄冠に輝く姿に感動する。そこに至った過程や生き様に勇気ももらい、精進する尊さを学ぶ。池江選手、桃田選手、頑張れ!! (小池光好)

段立

本来なら今頃、開会式に胸を踊らせ、各競技でアスリート達の一挙手一投足に目を凝らして熱い声援を送っていたことだろう。東京オリンピック・パラリンピックが一年延期となった。東京開催の是非に始まり、競技施設的设计変更や会場の変更などの紆余曲折を経て、さあこれからという時に新型コロナウイルスに見舞われた。来年の開催を危ぶむ声もちらほら聞こえてくる。ともかくここまできたら中止だけは御免こうむりたい。スポーツを愛好するひとりとしての切なる願いである。この一年の延期がアスリートに与える影響はいかばかりであろうか。悲喜(こ)もごもである。モチベーションの維持、体調の管理、練習の不足など取り巻く環境には筆舌に尽くしがたいものがあると思われ、が、心技体の充実を目指し、さらには運も味方に付けて、栄光への架け橋を駆け抜けてもらいたい。オリンピック・パラリンピックには付きものの感動がより一層際立つような活躍を望む。そして、素敵なドラマが生まれるような祭典になることを期待する。

中部の松岡敬子さん童話の本を初出版

『サーニヤの窓辺』



このほど、中部自治会にお住まいの松岡敬子(ペンネーム香田麻帆)さんが、童話の本を初出版しました。松岡さんは子どもの頃から本を読むことも文章を

書くことも好きで、出版社への応募などにも取り組みながら、これまで十編ほどの作品を書いたそうです。今回の作品『サーニヤの窓辺』は、自身が飼っ

ていた猫の思い出をもとに綴ったもので、生命と関わることで、温かみをもつて接すること、そのようなことを読み取っていただけに幸いとのことでした。

また、今回の初出版を通じて改めて、ご主人様や周囲の方の応援に感謝

謝すると共に、多くの人の関わりの中で生きてきたことを実感し、応援してくれることへのありがたさを強く感じているとのこと



この本には、多数の挿絵が挿入されていますが、自然や童画の描写で有名な菅田英一さん(兵庫県在住)が担当されています。菅田さんとの出会いは全くの偶然で、二十五年ほど前にたまたま買い求めたポストカードが当時安曇野在住だった菅田さんのもので、その後、林里の喫茶室エルニーニョでの菅田さんの作品展などを通して交流が深

まったそうです。今回の出版もエルニーニョさんの後押しなしには叶わなかったとも話されています。

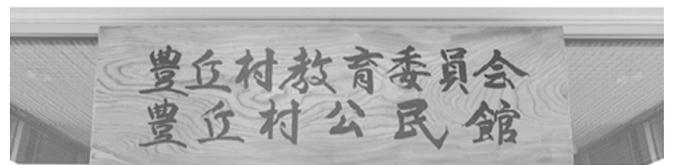
『サーニヤの窓辺』は、平安堂飯田店・座光寺店(郷土の本のコーナー)にて販売しており、インターネットで南信州新聞社出版局からも購入できるぞ



松岡敬子さん(エルニーニョにて)

うです。また、村図書館にも寄贈していただいています。(公民館事務局)

「ゆめあるて」に看板を掲出



このほど、「ゆめあるて」の正面玄関に「豊丘村教育委員会」「豊丘村公民館」を示す看板が掲げられました。看板は縦六十cm、横二mのサイズで、玉空と呼ばれる渦巻きを連ねたような美しい木目のケヤキの材で作られ、納品した筒井銘木さんによると樹齢三百四百年以上とのこと

揮毫は、「ゆめあるて」玄関横の村歌の歌碑で揮毫していただいた河野の松村翠江先生にお願いしました。「ゆめあるて」は、多くの夢がうまれる豊丘村の文化・芸術の拠点となることを願って名づけられた愛称であり、施設の正式名称は「豊丘村交流学習センター」です。平成二十六年十月の竣工以来、事務室には施設管理を担っている教育委員会と公民館が席を並べていますが、特に村外のお客様から教育委員会や公民館の事務所が分からないという



声をいただいています。(教育委員会事務局)

シリーズ「元氣な高齢者」69 苦しみと多かりし我が人生に悔いは無し

松村喜由さん 九十一歳 駒沢在住



昭和四年に現在地で、農業を営む両親の元、八人きょうだい(男四、女四人)の二番目、次男として生まれた。八人の仲は良く、裕福とは言えないまでも世間並みの暮らしであった。

二歳上の兄は父親の農業を手伝っていたが、元来体が強くなくやがて田村のラジオ店で働くようになった。喜由さんは元々農業に執着は無く、近所の人の成功例にあやかろうと高等科二年

を卒業し、すぐに搾乳を始め当初の購入価格より四倍弱で売れるという旨味を経験したが、その一回きりで止めてしまった。次に養豚業に切り替えたが、一緒に取り組んだ仲間が急死してしまいそれも取りやめ。やがて知り合いの伝で佐久間ダムの建設現場に向いた

が、高所恐怖症のため長続きせず半年ほどで止め、地元に戻り飯田市内で働いた。丁度その頃、飯田の大火に遭遇、間近で恐ろしい思いをした。十八歳の時、青年会の仕事で薪取りの最中に突然激しい腹痛に襲われ病院に担ぎ込まれ、盲腸ということで緊急手術した。あ

とからの見立てでは生命が危険であったとのこと。三十六年に一念発起し、当時既に独立してラジオ店

を営むことに決めた。元来酒には目が無い上に、仕事上の付き合いで酒席も多かったし、更にタバコも好んでいたが、二十五年前に姪の忠告でピタリとやめた。血圧、血液など医者

の夢がうまれる豊丘村の文化・芸術の拠点となることを願って名づけられた愛称であり、施設の正式名称は「豊丘村交流学習センター」です。平成二十六年十月の竣工以来、事務室には施設管理を担っている教育委員会と公民館が席を並べていますが、特に村外のお客様から教育委員会や公民館の事務所が分からないという

あつたが、それを機に建築した。千穂子さんは懸命に喜由さんを支えたが、心労が重なり不幸にも結婚五年後に脳梗塞を患い以後約五十年の長きに亘り入院生活となり、喜由さんはその間ずっと介護することとなった。そのような事情のため子供には恵まれず半世紀の間、一人暮らしである。私的面で大きな楽しみはパソコンであり、経験は二十年以上と筋金入りである。その間トータルすれば負けていないという。自然と仲間が集まり四方山話に弾み、時には野菜を頂戴することもある。昼食は近くのコンビニ二弁当で済ませ時間の経つのを忘れるほどである。

元来酒には目が無い上に、仕事上の付き合いで酒席も多かったし、更にタバコも好んでいたが、二十五年前に姪の忠告でピタリとやめた。血圧、血液など医者

の夢がうまれる豊丘村の文化・芸術の拠点となることを願って名づけられた愛称であり、施設の正式名称は「豊丘村交流学習センター」です。平成二十六年十月の竣工以来、事務室には施設管理を担っている教育委員会と公民館が席を並べていますが、特に村外のお客様から教育委員会や公民館の事務所が分からないという

ひ拝見させてもらいたい。(文責 桐崎長二)

蛇川下流域三六災害体験談(14) 蛇川の三六災のことが生々しく書かれた記録を見つける

原章(古畑)

「蛇川の激流は堤防を越えて氾濫状態となり、蛇籠を積み重ね各戸より持ち出してくれた畳を継ぎ合わせ蛇籠を補強、部落一丸となつての防災に寝食を忘れて、洪水との戦いに明けく

れた。さらに上村地区への氾濫を防ぐ為に、北入線の路面上に牛柵を組み、防

災に走り廻つたことを想い出します。…」

☆三六災の時、上村の人たちは蛇川の氾濫を、力を合

「蛇川の激流は堤防を越えて氾濫状態となり、蛇籠を積み重ね各戸より持ち出してくれた畳を継ぎ合わせ蛇籠を補強、部落一丸となつての防災に寝食を忘れて、洪水との戦いに明けく

たことが、蛇川氾濫から地域を救ったのかも知れませんが、人々が力を合わせた



畳が並べられた蛇川

「蛇川の激流は堤防を越えて氾濫状態となり、蛇籠を積み重ね各戸より持ち出してくれた畳を継ぎ合わせ蛇籠を補強、部落一丸となつての防災に寝食を忘れて、洪水との戦いに明けく

たことが、蛇川氾濫から地域を救ったのかも知れませんが、人々が力を合わせた

「蛇川の激流は堤防を越えて氾濫状態となり、蛇籠を積み重ね各戸より持ち出してくれた畳を継ぎ合わせ蛇籠を補強、部落一丸となつての防災に寝食を忘れて、洪水との戦いに明けく

たことが、蛇川氾濫から地域を救ったのかも知れませんが、人々が力を合わせた

「蛇川の激流は堤防を越えて氾濫状態となり、蛇籠を積み重ね各戸より持ち出してくれた畳を継ぎ合わせ蛇籠を補強、部落一丸となつての防災に寝食を忘れて、洪水との戦いに明けく

たことが、蛇川氾濫から地域を救ったのかも知れませんが、人々が力を合わせた

第13回 走れメロス

鉄道全国旅歩き

北市場三

山本義彦



ディーゼル機関車の先頭に走れメロスの「ヘッドマーク」を付けて三両のレトロな客車を牽引して真つ白な平原を懸命に走る姿はまさにメロスだ。走れメロスは太宰治の作で、「自分の罪に替わって友人を人質に妹の結婚式を見届けるべく三日の約束で刻限までに帰ってくる条件で旅に出る」が大筋である。太宰が裕福な地主の六男坊として育ったせいも、また成人して左翼運動に傾注したのか、生家について彼の日記に「父はよくもこんな大きな家を建てたものだ」と少々批判的な文章を残している。地主として搾取する側の苦悩もあつたのか。太宰の生家は本州



太宰治の生家

の最北端、津軽半島の金木町で、この中里の駅と五所川原駅を結ぶ二十・七キロの津軽鉄道は昭和五年の開業以来今日まで民営で生き残っている。日本各地の民鉄は戦前、戦中に国鉄に合併され軍事物資や兵員の輸送と飽くなき戦争の具にされ、その後JRに分割された、やがてモーターゼイションの波に飲み込まれ消える運命をたどる中、津軽



勇壮だ。津軽じよんがら節で知られる、津軽三味線の発祥の地でもある。

威容を誇つていて、今は太宰治記念館(斜陽館)として一般公開している。その斜め前には津軽三味線のライブハウスがあり、厳しい環境の中で生きた、「こぜ」(門付け)が源流の太宰三味線の演奏は



ストープ列車のストープ

風雪に耐えた「こぜ」の再現か、下から雪が吹き付ける地吹雪の体験ツアーもあるようだ。太宰治と雪原を走る列車を堪能し、五所川原温泉に旅装を解く。翌日、岩木山の裾を日本海沿いに走る五能線で秋田まで。途中深浦海岸の絶景や世界遺産の白神山地の見事な森林を眺め東能代で乗り換え秋田へ。今でも快速リゾート「しらかみ」が走っている。(平成二十三年二月乗車)

こちら資料館 206 資料館特別展延期

本年度の資料館特別展は新型コロナウイルスのため中止とし、来年度に延期します。理由は、最近沈静化の傾向にあるコロナですが、まだまだ油断ができません。準備の大幅な遅れを余儀なくされているからです。実は、本年度の資料館特別展は、豊丘村で二人目の名誉村民となった片桐典徳氏を取り上げ、氏の仕事と人となりを紹介する展覧会を計画して、準備を始めて

いました。その矢先のコロナの流行で、京浜急行側との連携が頓挫したまま今日に至っています。ご承知のように、片桐典徳氏(写真)は、当村の林里出身で京浜急行電鉄の社長・会長を歴任された方です。氏は日本の私鉄業界への多大な貢献と実績を評価され、昭和六三年に勲一等瑞宝章を受章されています。また、故郷への思いも

厚く、関東豊丘会の会長を長年務めるとともに、村の図書館へ多額の寄付をされるなど村を外から応援し続けてくださいました。村では叙勲の同年、氏を名誉村民に選任しました。



資料館主任 唐澤武彦

エピソード等お持ちの方は資料館までご連絡をお願いいたします。ご協力をお待ちしています。

明治の末期、わたしがうちのおばあさんから聞いた話です。わたしの家は大きな竹やぶの下ですが、夜、家内の者が寝るころになると、上の竹やぶで奇妙な音がしたそうです。ザーザーザーと、ザルのようなもので豆をあらす(ころがす)のと同じようだったと話してくれました。その時、うちの親父が

俳句 短歌

遠い事十葉の花母のこと
柿若葉待つ人の無き家に入る
ワクチンの完成未だ梅雨に入る
アカシヤの香もまた白し朝の村
初夏の花嫁に合う表参道
さざ波にふんばる苗の夕植田
虹を見てより良い方へ考える
一病を告げられし兄花柘榴
迷ひたるほうたる闇にもどしけり
家系図の裾の広がり青あらし
初堂天竜川の閘彩どれり
夏椿なほ月に照らされ渇りなし
ありし日の夫の面影遠郭公
逝きし師の言霊胸に螢の夜
青天竜川龍神橋と命名す
瑠璃啼くや大きみに朝日沁み

磯部セツ子
田中 静
片桐 洋子
森田 恵子
三島 里子
木下 眞水
松岡 照子
宮下 公
宮下 純子
池田 美和
丸山 時子
矢島千勢子
河手 洋子
林 恵美子
小平 良子
北原 昭子

『豊丘村民話集』より

小豆洗いのお話

あずき 片桐政雄

やぶの際まで行つて大きな声で怒鳴つてくると、それでその音もなくなったという事です。

最近、近くの古老で八十歳のおばあさんに聞いたのですが、そのおばあさんの上の竹やぶにも小豆洗いが出たそうで、当時、本当に聞いたそうです。

ほかにも竹やぶはたくさんあるのですが、他ではそのような話は聞いていません。

(豊丘村民話集・第巻) (昭和五十二年)より
文責：壬生雅穂

〈豊丘村川柳クラゲ豊柳会〉

柳

▼課題「長」 福沢勝美 選

長い愛心の中でうずをまく 鎌倉美登里
政権が長引き増えていく疑問 原 美風
手を取つて共に越え来た長い坂 西元 峯子
軸吟：三蜜を長電話して気を晴らす

▼課題「所」 互 選

テレワーク事務所代わりの台所 市沢 照子
入学式コロナで場所が校庭に 安田 喜子
短所でも長所に変えて生きてきた 林 もも子
コロナ禍で行き場所消えた辛さ知る 桃沢 健介

▼自由吟 桃沢健介 選

雨も降れ天気にもなれ待つがいい 久保ひろし
本読まぬ妻がこっそり終活本 神稲 邪道
モリカケも桜もみんな黒い川 山本 義彦
マスクせず気ままに土と生きる幸 福沢 勝美
軸吟：給付金ひひ孫社に配らせる

〈とよおか短歌会〉
洗面の棚に每晚泊り来る葉作りもせずはぐれ燕か 福澤貴美恵
みどり児の眠りの中の洪面に産神あやすかほほ笑みかえす 大倉 知江
郭公の初鳴きを聞く朝まだき夫呼ぶ声か今日は命日 筒井 恵子
世界とは広しと思えどこんなにも近きと思うコロナ禍の日日 毛涯百合子
コロナ禍で体操教室中止なり思い出しては手足うごかす 壬生 千春
爽やかな風はいずこで吹いたやら梅雨の前より真夏日続く 大原真由美
三密に換気消毒習慣なるコロナ防いで地域の集い 松下 泰見
爽やかに澄んだ瞳の青年のマスクの向こう初夏の空 北澤 秀子
村に住むオペラ歌手のうた声にステイホームの憂さを晴らせり 松尾ヒサコ
コロナ禍に避難せし孫二人してウェブ授業終へソナタ連弾 福澤 亀人

~シリーズ~ 豊丘の自然 No.198

ヨコヅナサシガメ (サシガメ科)



村民の方から一枚の写真を頂いた。「見たことがなかったから」との事。今月の主役。名前はヨコヅナ(横綱)サシガメ。私も見たことがなかった...

で、日常が新しい。日常へ変わろうとしている。今までの以上に自然から人間が遠くのではないかと心配している。話はモリアオガエルにか...

盛りのバラ園は色鮮やかな色に満ち溢れ、どこにレンズを向けても素敵な写真が撮れますが、先ず一枚は園全体を押さえこの場合でもカメラはやや下向きにすることで、花咲く様子を多く取り入れることができます



6月の花といえばバラがあります。このバラで撮影のポイントを見ていくことにします。(北市場上沼さんのバラ園にて)

切です。あれもこれもと欲れに集中して写すことが大切です。あれもこれもと欲

多くの花の中から撮りたい花を決める張ると何を写したかったのが薄れてしまいます。それでは如何に撮りたいものを浮かび上がらせるか、強調させることができるかを考えていきます。まずレンズの明るさが重要となります。コンパクトカメラは比較的広角側は明るく設計されています。今回使ったコンデジはF1.8という明るいものですが、暗くても背景はある程度ボケてくれます。ボカすことで撮りたいものをボカすことにより、一層

す。このためにはカメラのレンズの最短撮影距離を知ることです。被写体いっぱいまで近づきピントが合いましたよという「ピッ」の音がするまでカメラを前後して、緑色の四角の枠が点灯したらピントが合ったこととなります。右の二枚の写真で比較していますが、絞り数字の大きな時は背景まで像はそれなりに見えています。絞りを開いた絞りでは背景はぼやけています。この操作をしなければ花の優しさは表現できません。いずれも広角側で撮っています。さらには花らしく可憐さを狙いたいのであればズームアップして望遠系で挑戦しましょう。望遠にするとうまくも暗くなりがちですが、注意することは、明るい絞りで絞りを絞る心

※ここで使用したカメラは、全てコンパクトカメラです。写真・文 宮下正弘



レンズの前にさらに花を入れる



北極圏で暮らしていたことを話す「なにをしてたの？」と聞かれることが多いので、連載五回目にして私が北極圏でなにをしてたかという話をしたいと思います。

私が北極圏で「レインドリフト」という仕事の手伝いをしていた。「レイン」とはノルウェー語で「トナカイ」という意味で日本語に訳すと「トナカイ放牧者」とか「トナカイ従事者」とかその辺りになるのだろうか。現在ノルウェー国内に野生のトナカイは生息しておらず、すべてのトナカイはノルウェーが決めた上限のもと、誰かに所有されている。なので、サーミの人々は限られたトナカイをいい品質に保てるように栄養価の高い餌を撒いたり、予防

がすつと助けてくれる。何度も見知らぬ人のお世話になった。またスノーシューの持ち上げ方にもコツがあるのか、筋肉量が違うのか、七十歳を超えたおじいさんがトコトコやっつけてヒョイッと持ち上げるから悔しくてならなかった。さて本題に戻ろう。数千頭に仕分けたトナカイ、このまま捕まえるわけにもいかず、今度は数十頭ほどの網を使って、小さな囲いの中に追い込んでいく。小さな囲いまで入ったらようやく捕まえる作業にはいる。トナカイの群れの中にはいろいろな人の所有するトナカイが混ざっている。トナカイからすると誰のものとかは後付けで、関係なく暮らしているから当たり前ではあるのだけれども、これが厄介で、他人のトナカイに、無許可で予防接種をしたり、勝手に出荷したりするわけにはいかない。そのなれば、どのトナカイが自分のものか、自分たちの家族のものかを見分けて捕まえてはならない。トナカイの見分け方はまた別

に紹介するが、素人の目で簡単に判断できるものではない。なので、私は、眼は現役だが体が動きづらいうおじいさんとタッグを組んでいた。小さな囲いは円状になっており、トナカイは習性からその中をぐるぐる回っている。僕はおいしいさんが「アレだ！あのトナカイを捕まえるろ！」と教えてもらったトナカイを眼で追い続け、自分の近くにきたら手でムンズと捕まえていた。こうして、ただの居候ではなく、それなりに仕事をする居候として生活していた。気候が暖かくなり、雪が溶けてくれば、素手で捕まえる作業が終わり、投げ縄で捕まえるのだが、これまた難しい。私もマイ投げ縄を買って練習こそしていたが、本番で一度も活躍することが出来ずに北極圏を離れてしまったのが心残りだ。また活躍できる日を楽しみに長野県でも練習をしていた。

撮りテリク術 写真が好きな人になる上手くなるの 写真初歩テクニク 3

張ると何を写したかったのが薄れてしまいます。それでは如何に撮りたいものを浮かび上がらせるか、強調させることができるかを考えていきます。まずレンズの明るさが重要となります。コンパクトカメラは比較的広角側は明るく設計されています。今回使ったコンデジはF1.8という明るいものですが、暗くても背景はある程度ボケてくれます。ボカすことで撮りたいものをボカすことにより、一層

花の撮影は晴れた日より曇りの日か、太陽に向かい逆光気味が良いでしょう。水滴を付けられさらにみずみずしさが表現できます。立体的表現が可能となつてきます。

北極圏で暮らしていたことを話す「なにをしてたの？」と聞かれることが多いので、連載五回目にして私が北極圏でなにをしてたかという話をしたいと思います。

に訳すと「トナカイ放牧者」とか「トナカイ従事者」とかその辺りになるのだろうか。現在ノルウェー国内に野生のトナカイは生息しておらず、すべてのトナカイはノルウェーが決めた上限のもと、誰かに所有されている。なので、サーミの人々は限られたトナカイをいい品質に保てるように栄養価の高い餌を撒いたり、予防

がすつと助けてくれる。何度も見知らぬ人のお世話になった。またスノーシューの持ち上げ方にもコツがあるのか、筋肉量が違うのか、七十歳を超えたおじいさんがトコトコやっつけてヒョイッと持ち上げるから悔しくてならなかった。さて本題に戻ろう。数千頭に仕分けたトナカイ、このまま捕まえるわけにもいかず、今度は数十頭ほどの網を使って、小さな囲いの中に追い込んでいく。小さな囲いまで入ったらようやく捕まえる作業にはいる。トナカイの群れの中にはいろいろな人の所有するトナカイが混ざっている。トナカイからすると誰のものとかは後付けで、関係なく暮らしているから当たり前ではあるのだけれども、これが厄介で、他人のトナカイに、無許可で予防接種をしたり、勝手に出荷したりするわけにはいかない。そのなれば、どのトナカイが自分のものか、自分たちの家族のものかを見分けて捕まえてはならない。トナカイの見分け方はまた別

に紹介するが、素人の目で簡単に判断できるものではない。なので、私は、眼は現役だが体が動きづらいうおじいさんとタッグを組んでいた。小さな囲いは円状になっており、トナカイは習性からその中をぐるぐる回っている。僕はおいしいさんが「アレだ！あのトナカイを捕まえるろ！」と教えてもらったトナカイを眼で追い続け、自分の近くにきたら手でムンズと捕まえていた。こうして、ただの居候ではなく、それなりに仕事をする居候として生活していた。気候が暖かくなり、雪

が溶けてくれば、素手で捕まえる作業が終わり、投げ縄で捕まえるのだが、これまた難しい。私もマイ投げ縄を買って練習こそしていたが、本番で一度も活躍することが出来ずに北極圏を離れてしまったのが心残りだ。また活躍できる日を楽しみに長野県でも練習をしていた。

が溶けてくれば、素手で捕まえる作業が終わり、投げ縄で捕まえるのだが、これまた難しい。私もマイ投げ縄を買って練習こそしていたが、本番で一度も活躍することが出来ずに北極圏を離れてしまったのが心残りだ。また活躍できる日を楽しみに長野県でも練習をしていた。



いっぱいまで絞る (F11)



一番明るく (F1.8)

被写体(花) いっぱいに近づく